

1984年3月15日

図鑑の鳥の絵は左向き、右向き？

森岡弘之

読んで下さった方もあろうかと思うが、私は「鳥」31巻4号に Etchécopar と Hüe 氏共著の "Les Oiseaux de Chine" の書評を書いた。そのなかに、「ただし、私には左向きと右向きの混じった図版は見にくい（右向きはどうも馴染めない）」というくだりがある。最近、National Geographic の新しいフィールドガイドの紹介を書くことになり（鳥、32巻4号）、あらためて気をつけてみると、図鑑の鳥の絵には、左向き（頭が左）のものと右向きのものとの両方がある。

Robbins の北アメリカの鳥のフィールドガイドは、多分このニュースの読者の大部分の方がご存知であろう。したがって、これから例をとろう。例えば、p.88 のウズラの図版をはじめ、かなり多くの図版では、鳥は全部左向きである。一方、p.18 のアビの図版その他では、全部の鳥が右向きである。さらに、p.78 のハヤブサの図版のように、左向きと右向きが混じっている図版もある。この場合、左向きと右向きとが向かい合っている時と、尻合わせになっている時とがある。

このように、一冊の本のなかにいろいろなレイアウトの図版が混じっているのは、おそらく図版を組んだ人が変化を持たせたいと考えたためであろう。しかし、左向きの絵と右向きの絵と、どちらが見やすいであろうか。私が数冊の北アメリカやヨーロッパの鳥のフィールドガイドを並べて比較した結果は、全部左向きの図版は全部右向きの図版よりナチュラルであり、見やすい。また、左向きの図版と右向きの図版をとこどこ取り混ぜる必要性はなさそうに思われる。

次に、左向きと右向きの絵が1枚の図版に入っている場合だが、この場合は図版の組み方によって、いちがいにいえない。とくに、紙面を効果的に利用するために、一部の鳥が向かい合った組み合わせになっているのは、悪くない。例えば、p.72 のノスリ、p.96 のゴイサギ・ヨシゴイ、p.258 のアメリカムシクイなどである。一方、明らかによくないのは、互いに尻を向け合ったロンバリ型である。p.82 のシチメンチョウがその例である。さきあげた Etchécopar と Hüe の本の図版は、このロンバリ型が非常に多いために（31図版のチメドリ、35図版のムシクイ、37図版のカラ類、39図版のホオジロなど）、とくに不自然に感じたのである。

今度の National Geographic のフィールドガイドは、左向きと右向きの入り混じった図版が比較的多いが、他のフィールドガイドと比べて、ごたごたしている感じはいなめない。例えばカモ類の図版は、左向きと右向きが上下に交互になっているが、このレイアウトは失敗といってもよいだろう。また、カモやシギチドリの飛翔図（p.92 - 95、136 - 139）は全部右向きだが、これも全部左向きの方がよかった。

日本野鳥の会のフィールドガイドの図版は、ほとんど全部左向きである。これで不自然だとは思わないが、向かい合わせのものがもう少しあってもよかったのかも知れない。

論文の図も、原則として左向き（および上向き）の方がよい。私の場合、無意識にそうしていた。しかし、雑誌によっては右向きの図が多いものもある（下向きは特殊な場合である）。

左向きの方が自然に見える理由のひとつは、鳥が右から左に動く方（左向き）が、その反対の場合より見やすいせいであろう。銃で標的をねらう時は、標的が右から左へ動く方が明らかにねらいやすい。双眼鏡で見る時も同様のはずである。もうひとつの理由は、図版は原則として見開きの右側にあるので、右向きの絵は、本から逃げ出すような格好になって、落ちつかないのである。しかし、ほかにも理由が考えられるかも知れない。右ききの人と左ききの人とでは、意見が反対になると面白いと思う。

地方鳥類誌 都道府県別出版目録

川内 博

この文献目録は、1970年以降に出版されたもので、都道府県全域について取り扱ったものだけに限りません。()内は発行年, []内はその本の内容を示したもので、D:データ E:解説 G:探鳥ガイド L:リスト M:分布地図 Pc:カラー写真 Pm:白黒写真 R:参考文献 です。順序はその本の重さをおいてと思われる順ですが、厳密ではありません。なお、このリスト作成にあたって、ご協力いただいた方には次号に掲載します。(※のついているものは、現物が入手できていないものです。)



【北海道】

- a. 北国の自然と野鳥(1972)井上元則. 農林出版. 700円 [207 pp. E. Pm]
 b. 北海道の自然 — 野鳥(1977)井上元則. 北海道新聞社. 980円 [253 pp. E. Pm]
 c. 原生生態図鑑 北海道の野鳥(1977)井上元則. 北海タイムス社. 1,500円 [215 pp. Pc, E]
 d. 北海道の鳥(1978)竹田津実・小川巖. 北海道大学図書刊行会. 1,300円 [175 pp. Pc, E]
 e. 北海道の野鳥(1978)北海道新聞編. 北海道新聞社. 1,800円 [246 pp. Pc, E]
 f. 北海道野鳥歳時記(1979)藤巻裕蔵・百武充編. 日本放送出版協会. 950円 [253 pp. E. Pm]

【東北地方】

- a. 自然に生きる — 東北の野鳥(1981)小笠原嵩. 第一法規出版. 1,200円 [181 pp. E. Pm-c]

【青森県】

- a. 青森県の鳥獣(1972)県農林部林務課編. 青森県 [129 pp. E. Pm-c]
 b. 青森県の鳥獣(1978)県農林部自然保護課編. 青森県 [274 pp. E. Pm. c. L. R] aの再版

【岩手県】

- a. 岩手の鳥獣(1978)県環境保健部自然保護課編. 岩手県 [274 pp. E. Pc]

【宮城県】

- a. 宮城県野鳥分布調査報告書(1976)田中完一他. 宮城県 [68 pp. L. E. D. R]

【秋田県】

- a. あきたの野鳥(1973)県環境保健部自然保護課編. 秋田県 [84 pp. L. D. Pm. c. L]
 b. 秋田の野鳥(1977)西出隆. 無明舎. 680円 [169 pp. E. Pm. c. L]

【山形県】

- a. 山形県の野鳥(1974)高橋多蔵. 山形県野鳥刊行会. 1,600円 [106 pp. E. D. Pm. c. R]

【福島県】

- a. ふくしまの野鳥(1975)湯浅恭一編. 福島中央テレビ. 680円 [203 pp. E. Pm. c. L]
 b. ふるさと鳥をたずねる(1979)県野鳥の会編. 福島県野鳥の会. 2,800円 [161 pp. E. L. Pm. c. R]

【関東地方】

- a. 関東周辺野鳥観察ガイド(1981)唐沢孝一他. 実業之日本社. 880円 [249 pp. G. Pm. c]

【茨城県】

- a. 茨城の野鳥(1981)望月和男. 落合書店. 2,000円 [288 pp. E. Pm. c]

【栃木県】

- a. 栃木の野鳥(1980) 栃木の野鳥制作委員会編. 栃の葉書房. 1,300円 [194 pp. E. Pm. c. G]
- b. 栃木県産鳥類目録(1981) 目録編集委員会編. 日本野鳥の会栃木県支部 [186 pp. D. L. R]
- 【群馬県】
- a. 群馬の野鳥(1971) 日本野鳥の会群馬県支部編. 群馬県 [123 pp. E. Pm. G]
- b. 群馬の野鳥(1973) 卯木達郎. 煥乎堂. 1,300円[※] [267 pp. E. Pm. c. G]
- c. 群馬の鳥を探る(1979) 卯木達郎. みやま文庫 [285 pp. E. Pm. c]
- d. 野鳥の世界をたずねて(1980) 卯木達郎. 上毛新聞社. 1,800円 [230 pp. Pc. E. G]
- 【埼玉県】
- a. 埼玉の鳥類<埼玉県動物誌>(1978) 小杉昭光. 埼玉県教育委員会 [p. 45 - 85. E. L. D. R]
- b. 埼玉四季の鳥(1983) 日本野鳥の会埼玉県支部. 埼玉新聞社. 2,500円 [287 pp. Pc. E. G]
- 【千葉県】
- a. 千葉県鳥類目録(1976) 県環境部自然保護課. 千葉県 [134 pp. D. Pm]
- b. 千葉県の鳥類<千葉の生物>(1975) 松田道生. 千葉の生物編集部 [p. 123 - 135. L. E]
- 【東京都】
- a. 東京都産鳥類目録(1975) 日本野鳥の会編. 東京都公害局自然保護部 [223 pp. D. L. Pm. R]
- b. 三宅島産鳥類目録(1977) 浅沼和男. [51 pp. D. L]
- c. 東京都鳥類繁殖調査報告書(1980) 都公害局自然環境保護部編. 日本野鳥の会 [107 pp. M. E]
- d. 東京の野鳥(1981) 大作栄一郎. 東京新聞出版局. 1,800円 [219 pp. Pc. E]
- 【神奈川県】
- a. 神奈川県鳥類誌1・2(1971・74) 中村一恵. 神奈川県立博物館 [50・38 pp. E. L. D. Pm. R]
- b. 神奈川県のとりとけもの(1973) 県農政部編. 神奈川県 [46 pp. L]
- c. 神奈川の野鳥(1980) 日本野鳥の会神奈川支部. 有隣堂. 1,300円 [261 pp. E. Pm. c. L. D. G]
- d. かながわの鳥(1983) 柴田敏隆. 神奈川合同出版. 630円 [160 pp. E. Pm. c. L]
- 【新潟県】
- a. にいがたの野鳥 正・続(1976・77) 風間辰夫. 野鳥出版. 各680円 [各126 pp. E. Pm]
- b. 新潟県鳥獣図鑑(1981) 本間義治監修. 新潟日報事業社. 2,000円 [310 pp. Pc. E. L]
- c. 佐渡の野鳥(1981) 近藤健一郎. 著者出版. (1,500円) [97 pp. E. Pc. m. D]
- 【富山県】
- a. とやまの野生鳥獣(1977) 県自然保護課. 富山県[※] [147pp. E. Pm. D]
- b. 富山県の鳥獣(1980) 県自然保護課. 富山県[※] [242 pp. L. E. D. Pm]
- 【石川県】
- a. 鳥類<石川県の自然環境 第3分冊鳥獣>(1977) 石川野鳥の会編. 石川県 [p. 1~147. E. L. D]
- b. 軸倉島の鳥(1979) 石川野鳥の会編. 同会出版. (1,500円) [97 pp. D. E. Pc. m. R]
- c. 続・軸倉島の鳥(1981) 日本野鳥の会石川支部編. 同会出版 [26 pp. D. L]
- d. 北国の野鳥(1983) 日本野鳥の会石川支部編. 誠文堂新光社. 5,000円 [194 pp. Pc. E. L]
- 【福井県】
- a. 福井県の鳥獣(1982) 県生活環境部自然保護課編. 福井県[※] [240pp. Pm. c. E. D. L]
- 【中部地方】
- a. 東海の野鳥(1978) 中日新聞社開発局編. 中日新聞社本社. 980円 [200 pp. Pc. m. G]
- 【山梨県】
- a. 山梨の鳥(1977) 中村司・依田正直. 山梨日日新聞社. 1,800円 [379 pp. E. Pm. c. D. L]
- b. 鳥類の概況<山梨県の野生動物>(1980) 県県民生活局自然保護課編. 山梨県 [p. 51 - 85. E. L]
- c. 山梨の野鳥(1983) やまなし野鳥の会研究グループ編. 山梨日日新聞社. 1,500円 [150 pp. Pc. E]
- 【長野県】
- a. しなの野鳥記(1975) 小平万栄. 信濃路. 1,000円 [222 pp. E. Pm]
- b. 長野県の野鳥 — 繁殖期の鳥類群集について(1977) 信州鳥類生態研究グループ. 長野県 [182 pp. E. D. Pm. R]

- c. 長野県野鳥図鑑 (1978) 信州鳥類生態研究グループ・行田哲夫. 信濃毎日新聞社. 2,000円 [300pp.Pc.E]
- d. 長野県鳥類目録 — 1972～78年の記録 (1979) 日本野鳥の会長野支部. 同会出版. [226pp.D]
- e. 長野県下における特殊鳥類 (1983) 信州鳥類生態研究グループ. 長野県林務部治山課 [135pp.E.D.Pc]
- 【岐阜県】**
- a. 鳥類<岐阜県の動物> (1974) 岐阜県高校生物教育研究会編. 大衆書房 [p.68～94.L.E.Pm]
- b. 岐阜県の野鳥 (1983) 県生活部環境部. 岐阜県 [155pp.Pc.E.L.G]
- 【静岡県】**
- a. 静岡県の自然 — 四季の野鳥 (1976) 北川捷康他. 静岡新聞社. 950円 [249pp.E.Pm.c]
- 【愛知県】**
- a. 愛知県の野鳥 (1971) 県農林部林務課. 愛知県[☆]
- b. 愛知県の野鳥 (1972) 県農林部治山課. 愛知県 [144pp.E.Pm]
- c. 愛知県の野鳥 (1977) 県農林部治山課. 愛知県[☆] [246pp.D.E.L]
- d. 愛知の野鳥 (1983) 県農地林務部自然保護課 [332pp.M.E.D.L.R]
- 【近畿地方】**
- a. チェックリスト近畿鳥類目録 (1978) 中川暁之介. 著者出版 [25pp.L.D]
- b. 野鳥ものがたり — 京阪神の水辺の鳥 (1982) 坂根干. たたら書房 [211pp.E.Pm.D]
- 【三重県】**
- a. 三重県の鳥獣目録 (1973) 県農林水産部林業事務局編. 三重県[☆]
- b. 三重県鳥類の分布と生態 — 記録と標本 (1980) 橋本太郎. 著者出版. 6,000円 [217pp.D.E.Pm.R]
- c. 三重県鳥類の分布と生態 — 記録・生態写真集 (1983) 橋本太郎. 著者出版. 6,000円 [209pp.E.Pm]
- 【滋賀県】**
- a. 滋賀県の野鳥 (1982) 県生活環境部自然保護課編. 滋賀県 [134pp.L.E.G.Pc.m]
- 【京都府】**
- a. 京都の野鳥 (1979) 府農林部林務課編. 京都府 [112pp.Pc.m.E.G]
- 【大阪府】**
- a. 大阪の野鳥 (1973) 府農林部水産林務課編. 大阪府 [30pp.E.D.R]
- b. 大阪の野鳥・2 — 個体調査編 (1975) 府農林部自然保護課編. 大阪府 [75pp.D]
- c. 大阪の野鳥・3 (1982) 日本野鳥の会大阪支部編. 大阪府農林部自然保護課 [68pp.E.L]
- d. 大阪の野鳥 (1982) 大阪自然環境保全協会編. 松籟社. 780円 [198pp.E.Pm]
- 【兵庫県】**
- a. 兵庫の鳥 (1970) 鳥類同好会編. 同会出版 [298pp.D.E]
- 【奈良県】**
- a. 奈良県の野鳥 (1978) 奈良野鳥の会・日本野鳥の会奈良支部編. 同会出版 [89pp.Pc.m.E.L]
- b. 奈良県の野鳥 (1982) 県農林部林政課編. 奈良県 [90pp.Pc.m.E.L] aの2刷改訂版
- 【和歌山県】**
- a. 和歌山県の野鳥 (1981) 県自然保護課編. 和歌山県 [148pp.Pc.m.E.L.R]
- 【鳥取県】**
- a. 鳥取県の野鳥 (1980) 県農林水産部造林課編. 鳥取県 [103pp.E.L.Pc.m.G]
- 【島根県】**
- a. 島根県鳥類目録 (1978) 根岸啓二監修. 島根県[☆]
- b. 島根県の鳥類 (1983) 内田映. 島根野鳥の会 [75pp.D.L.E.R]
- 【岡山県】**
- a. 岡山県の野鳥 (1974) 岡山県監修. 日本鳥類保護連盟岡山支部 [60pp.L.E.Pc.m]
- b. 岡山県都市別鳥類生息分布繁殖状況一覧表 — 増補改訂4版 (1983) 日本鳥類保護連盟岡山支部. 同会出版 [36pp.L]
- 【広島県】**
- a. 広島県の野鳥 (1980) 広島県編. 日本鳥類保護連盟広島県支部 [208pp.E.D.R.Pc.m.G]

- b. 広島県の鳥 (1983) 比叡科学教育編. 中国新聞社. 2,000円 [233 pp. Pc. E. D.]
- 【山口県】**
- a. 山口県の野鳥 (1976) 日本野鳥の会山口県支部. 同会出版 [228 pp. Pm. E. L. D. G.]
- 【四国地方】**
- a. 四国の野鳥 (1973) 和田豊洲. 高知営林局 [157 pp. E. L.]
- b. 四国の野鳥誌 (1982) 石原保. 築地書館. 2,400円 [190 pp. Pm-c. R.]
- 【徳島県】**
- a. 徳島の野生鳥獣 (1974) 県農林水産部林政課編. 徳島県 [82 pp. E. Pm.]
- b. 阿波の野鳥 (1978) 小林実. 南海ブックス. 830円 [246 pp. E. Pm. L. G.]
- 【香川県】**
- a. 香川県鳥類目録 (1977) 山本正幸. 香川野鳥の会^{*}
- b. 香川県鳥獣目録 (1980) 県自然保護課編. 香川県 [86 pp. L. E. D.]
- 【愛媛県】**
- a. 愛媛県の野鳥 (1977) 県農林水産部林政課編. 愛媛県. [40 pp. E. D. Pm. R.] 増訂再版
- 【高知県】**
- a. 土佐の野鳥 (1980) 県野生鳥獣保護の会編. 高知県^{*} [123 pp. E. Pc. L.]
- 【九州地方】**
- a. 九州鳥類目録 (1981) 九州各県自然環境保全審議会鳥獣保護連絡協議会 [36 pp. L. R.]
- 【福岡県】**
- a. 福岡県の野鳥 (1978) 福岡県の自然を守る会. 同会出版 [72 pp. E. L. Pm. R.]
- b. 福岡県の野鳥 (1979) 県水産林務部緑化推進課編. 福岡県 [128 pp. E. Pm-c. L. R.]
- c. 写真 福岡県の野鳥 (1982) 日本野鳥の会編. 福岡県水産林務部緑化推進課 [94 pp. Pc. E. G.]
- 【佐賀県】**
- a. 佐賀の野鳥 (1978) 県保健環境部環境整備課編. 佐賀県 [109 pp. E. Pc-m. D. L.]
- 【長崎県】**
- a. 対馬の鳥類<対馬の生物> (1976) 鴨川誠・山口鉄男. 長崎県生物学会 [p. 181~254. E. L. D. Pm. R.]
- b. 壱岐島の鳥類<壱岐の生物> (1977) 鴨川誠. 長崎県生物学会 [p. 239~266. E. D. Pm. R.]
- c. 長崎県の野鳥 (1980) 長崎県野鳥の会編. 同会出版. 1,800円 [202 pp. E. Pc. L. G.]
- d. 五島列島の鳥類<五島の生物> (1981) 鴨川誠・名切直夫. 長崎県生物学会 [p. 161~192. E. D. Pm.]
- e. 長崎県の鳥 (1983) 鴨川誠. 長崎県生物学会. 1,500円 [166 pp. Pc. E. L. M. G.]
- 【熊本県】**
- a. 熊本の野鳥を訪ねて (1976) 谷口育英. 著者出版. 920円 [140 pp. Pm-c. E. L. G. R.]
- b. 熊本県の野鳥 (1978) 熊本県林務観光部自然保護課編. 熊本野鳥の会 [197 pp. D. L. E. R. Pm.]
- c. 熊本の野鳥記 (1983) 大田真也. 熊本日日新聞社. 1,600円 [250 pp. E. D. Pm-c. L. G.]
- 【大分県】**
- a. 大分県の野鳥 (1982) 県林業水産部緑化推進課. 大分県 [205 pp. Pc. E. L. D. G. R.]
- 【宮崎県】**
- a. 宮崎の野鳥 (1971) 宮崎野鳥を守る会編. 同会出版 [190 pp. Pc. E. G.]
- b. 野鳥とみやざき (1978) 鈴木素直. 著者出版. 500円 [123 pp. E.]
- 【鹿児島県】**
- a. 鹿児島県の野鳥 (1975) 県環境局環境保全課 [100 pp. E. Pc.]
- b. 鹿児島県の野鳥 (1975) 県環境局環境保全課 [242 pp. E. Pc.]
- 【沖縄県】**
- a. 沖縄の自然 — 野鳥 (1975) 友利哲夫・新垣秀雄. 新星図書. 1,200円 [126 pp. Pc. E. L.]
- b. 八重山野鳥の会創立10周年記念誌 (1983) 八重山野鳥の会編. 同会出版 [75 pp. E. L. D. Pc-m.]
- c. 写真集 沖縄の野鳥 (1983) 琉球新報社編. 誠文堂新光社. 2,850円 [62 pp. Pc. E. L.]

Movement

鳥屋のみた動物行動学会

上 田 恵 介

第2回日本動物行動学会大会は12月9～11日にかけて、京都大学理学部で開かれた。鳥の行動生態学をやっているものとして、当然出なければならない学会ではあるが、それ以上に昨年、この同じ場所で開かれた第1回設立大会のおよそ“学会らしくない”気どらない雰囲気が入って比喩おろしの吹く、師走の京都へいそいそと出かけていった。大会では70のポスター発表、17のフィルムセッション、そしていくつかのラウンドテーブル（自由集会）が行なわれた。鳥の分野の発表は全部で13（ポスター11、ビデオ1、スライド1）あり、全体に占める割合は10%から15%へと鳥屋が若干進出した。

ところで、学会に参加して印象深く思うのは、議論を充分深めることができ、疲れが心地よいものになることである。それはポスター発表を主軸とした、この大会の運営の仕方にある。つまりポスター発表すると、言いっぱなし、聞きっぱなしではなく、その場その場で質問して、それに充分答えてもらえるからである。これは発表者にとっては、いい加減なことを書けないという意味ではつらいが、非常に勉強になる形式である。高名な先生も若い人と同じ輪の中で議論をたかかわせている。

フィルムセッションでコシジロウミツバメがエコロケーションをしているらしいという発表をした吉田昭彦さんと懇親会で話し合う機会があった。コシジロウミツバメは夜、コウモリのようにヒラヒラと飛ぶあのヒラヒラとした動作が音響定位にかかっているのではないかというのが、彼の研究の出発点だそう。それでは他のウミツバメ類はどうだろう。ヨタカの飛び方もそう言われれば変だ。生物物理屋の発想には我々も大いに学ぶべきところがある。3日目の午後、ティーパーティのあと「鳥のボーカルコミュニケーション」をテーマにラウンドテーブルがもたれた。参加者25名、動物学教室のセミナー室は満員の盛況であった。ホオジロ（明石全弘）、ウチャマシマセンニュウ（永田尚志）、ウグイス（百瀬浩）、それぞれの囀りについて話題提供が行なわれ、討論がなされた。野外における音声の記載の研究と、一方ですみつつあるホルモンや神経生理学的研究のあいだのギャップをどう埋めていくのが、鳥の音声研究者にとっての今後の課題となるであろう。

ともあれ、我々が鳥屋というせまいカラにとじこもらずに、虫屋や魚屋やサル屋さんたちと話ができ、そこから研究のヒントが生まれるという点で、今後とも参加していきたい学会のひとつである。発足後1年で会員数600名。欧文誌「Journal of Ethology」を出すまでになっている。

入会は（〒606）京都市左京区北白川追分町 京都大学農学部動物学教室内 日本動物行動学会事務局、（振替）京都5-1637（電話）075・751・2111（内4073）年会費：一般5,000円 学生3,000円である。

Information

○近畿地区懇談会では、3・9・12月に兵庫・大阪・京都で室内例会を開いています。興味ある方はご連絡下さい。鳥学会々員でなくても参加は自由です。（1982～3年の例会内容は次号に掲載予定）

<事務局> 〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学理学部生物学教室 上田恵介 気付

日本鳥学会 近畿地区 懇談会

○自然保護活動へ資金助成 富士フィルムが設立した「グリーンファンド」が次の要領で活動助成を募集しています。本学会員に関係するものでは(A)自然環境保全のための活動に対する資金協力(助成金総

額1,200万円 助成件数2件以内) (B) 緑の保全、活用に関する研究に対する表彰と資金協力(助成金額800万円 表彰件数2件) 以上募集期間 昭和59年5月まで。募集要項の請求先 〒113 東京都文京区本郷3-39-12 (財)日本野生生物研究センター内 公益信託富士フィルム・グリーンファンド事務局 (郵送をお願いします) 問い合わせ電話先 03(813)8806。

Meeting

鳥学会例会 1983年12月17日(土) 14~17時 東京大学農学部

<講演> 稀少鳥類のその後と展望: タンチョウ(百瀬邦和氏) アホウドリ(長谷川博氏) ヤンバルクイナ(尾崎清明氏) トキ(成島悦雄氏)

1979年度大会のシンポジウムのテーマであった稀少鳥類を意識しての例会。百瀬さんは飛行機からのセンサスの模様を、長谷川さんは8ミリで最新の状況を、尾崎さんは保護に関する諸々の問題点を具体的に、そして成島さんは人工飼育に最後の望みを託す様子をそれぞれ示された。講演後、机を移動し、参加者一同が車座になってディスカッションへ移ったが、内容は大きくわけて、①稀少鳥類を対象としてどんな研究をなすべきか、②調査費などとも関連して、それぞれの研究の必要性をいかに社会的に認識させていくかの2点で、様々な意見が出された。①では数をかぞえることが前面に出ているが、それ以外に一般的な生態面で調べることがたくさんあること、種として生きている状態での飼育増殖の研究が必要であることなどが議論された。②では説得力のある資料を示せるような基礎調査がなされていないとか、今の日本の制度では継続的で地道な調査が予算獲得の点で困難なこと、ただやり方によっては考古学のように制度化される道もあるというような意見もでた。鳥学会としては、すぐ何かできるという状況ではないが、会員の意識の喚起と情報交換によって、社会的に啓蒙をはかっていく努力をしようということになった。

(石田 健)

鳥学会ニュースの再出発について

「日本鳥学会ニュース」は第11号から「鳥学ニュース」として再出発することになった。鳥学会ニュースは、もともと「鳥」が年2回発行で、その2回も満足に出なかつた時代に、会員への連絡用として考えられたもので、第1号を1975年の暮れに出した。初めは私と竹下君が編集をやり、ついで唐沢君にバトンを渡した。現在の川内・長谷川両君は、編集者として三代目である。しかし、初めの頃は、編集といっても手分けして原稿を書くだけのことであった。その後「鳥」が遅れがちなながらも年3回出るようになり、ニュースの目的は一応終った。しかし、東京近郊の人がせいぜい20-40人しか集まらない例会の通知を全国の会員に送るより、その費用でニュースを充実させた方が、経済的にも会の運営のうえでも効果的であるのはいうまでもない。こうした考えで、評議員会にも計り、例会通知の廃止の代わりに、ニュースを年3回程度、少なくとも今までよりは定期的に出すことに決った。前号のニュースに、会合幹事の石田君が「例会通知方法の変更について」を載せている。それを読むと、経費節約のために例会通知を廃止したような印象を受けるが、実際は上に述べたようなことである。なお、ニュースをはじめ、現在考えられているいくつかの合理化の真の目的は、本会の体質の強化であり、それはいずれ近い将来、本会の事務のある部分を学会事務センターに委託することになるだろう、ということとも関連している。ニュースの拡充は、会員の増加を図りたいというのが、当面の目的である。

(森岡弘之)

例会のお知らせ

本誌を見せて動物園へお入りください

1984年5月26日(土) 午後2時開演 ～ 4時ごろまで

講演：ハシボソミズナギドリの光と影——繁殖地・タスマニアと越冬地・北太平洋ベーリングを訪ねて
岡 奈理子氏(山階鳥類研究所) 短報(当日でも受付けますので、スライドなどご持参ください)

会場：上野動物園・動物園ホール(東京都台東区上野公園 上野動物園西園内) 花園門より入園

☆ やもうえず講演の変更や中止をする場合があります。5月23～26日の昼間、テレフォンサービスをしていますのでご利用ください。電話番号 0484・62・7141

＜大会予告＞ 今年度の大会は9月29・30日(土・日)、三重県津市の三重県教育文化会館で開きます。一般講演・ポスター展示・シンポジウムのほか、エキスカージョンも予定されています。

初の関西地区での大会ですので、樋口行雄さんをはじめ、大阪や京都の会員諸氏も張り切って企画をねっています。詳細は次号で発表しますが、手帳に赤丸印をつけておいてください。

＜お名前にフリガナをつけてください＞ 新会員名簿を作ります。今回から「ABC順」にしますので、お名前の読み方の確認をしています。会費振込みのさい、用紙にフリガナを書いてください。

＜「鳥」32巻4号の発行予定と原稿募集＞ 遅れて申しわけありませんが、32(4)は4月下旬ごろまでにはお手元に届く予定です。また「鳥」への投稿を募集しています。

〒113 文京区弥生1-1-1 東京大学農学部森林動物学教室 樋口広芳 宛

＜次号予告 特集 マーキング法の工夫＞ 野外で動物の行動や社会関係、生態、移動を観察・研究・調査する場合、マーキング法(標識法)が有効な武器になることは周知のとおりです。研究の目的によって、個体識別であるか集団識別ですむか、おのずとまります。本来は自らの目的に最も適したマーキング法を考え出すのですが、これまでどのような創意工夫がなされているのかを知ることも、新しいマーキング法の開発や工夫にかかせないヒントとなるでしょう。夜行性の鳥のマーキングはどのように? 羽毛の染色に適した染料は? 色足環の入手・作成は? テレメトリーの実用性は? 脚の短い鳥へのマーキングは? などなど、実際に工夫されたことを400字程度にまとめてお寄せ下さい。＜締切り 4月末日＞ 送り先 〒112 文京区大塚5-40-10 日本大学豊山高校 川内 博 宛

編集後記

発行が急遽早まり、編集子はまたもアタフタ。新体制になって丸1年、次号からレイアウトをがらりと変える予定です。内容ももっと会員からの情報を増やしたいと思っています。「使える」ニュースレターを目指していますので、ご協力くださいますようお願いいたします。次号は6月発行予定です。(川内)

鳥学ニュース No. 13

1984年3月15日 発行 (会員配布)

発行所 日本鳥学会 (〒160) 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館分館内 (電話) 03(364)2311 (振替) 東京1-6599

発行人 黒田長久 編集者 川内 博・長谷川 博 印刷所 文英社印刷